

## 令和元年度 第4回小平市公民館運営審議会 会議要録

- 1 開催日時 令和元年9月17日(火) 14:00～16:00
- 2 開催場所 小平市中央公民館 会議室
- 3 出席者 小平市公民館運営審議会委員 12名  
事務局 中央公民館長、館長補佐兼事業担当係長、管理担当係長、  
分館担当係長 9名
- 4 傍聴者 なし
- 5 配布資料 (1) 令和元年度 小平市公民館定期講座実施状況表・・・資料1  
(2) 令和元年度 東京都公民館連絡協議会 職員部会 報告・・・資料2  
(3) 令和元年度 東京都公民館連絡協議会 委員部会 報告・・・資料3  
(4) 令和元年度 関東甲信越静公民館研究大会 報告書・・・資料4  
(5) 公民館運営審議会委員名簿(案)・・・・・・・・・・・・資料5  
(6) 小平市公共施設マネジメントニュース・・・・・・・・・・・・資料6  
(7) 夏休み学習室開放結果集計表・・・・・・・・・・・・資料7  
(8) 令和元年度 第3回小平市公民館運営審議会 会議要録・・・資料8
- 6 次第 (1) 館長報告  
(2) 公民館定期講座実施状況について  
(3) 東京都公民館連絡協議会について  
(4) 関東甲信越静公民館研究大会について  
(5) 10月29日開催予定の自主研修会について  
(6) 公民館運営審議会委員数について  
(7) 提言について  
(8) その他

### 会議の概要

#### 1 館長報告

- (1) 9月市議会定例会における一般質問について  
・会期は9月3日から30日まで。

- ・「中高生の居場所を充実させるべき」（幸田昌之議員）

公民館で中学・高校生が自習できるスペースについて問う。

（答弁）公民館では、8月を除き、空き部屋がある場合には、申し出に応じて学習室として開放している。また、団体利用の少ない8月は鈴木公民館を除き、各公民館1部屋を夏休み学習室として開放している。

- ・「小川駅西口地区再開発事業と周辺諸課題について」（細谷正議員）

西部市民センターの今後の活用について問う。

（答弁）新たな施設が再開発ビル内に移転するまでは、安心して利用できるよう、定期点検・補修など適切な維持管理に努めて行く。

- ・補正予算

修繕費を200万円増額。小川西町公民館の空調設備が故障し、緊急修繕したため、今後の修繕費の不足を見込んでのもの。

## （2）秋の公民館まつり

10月上旬から12月上旬まで6つの分館で公民館まつりが開催される。日頃公民館を利用して活動しているサークルの成果の発表の場、利用者や地域住民との交流の場、世代を超えた交流の場となる。

（質疑応答）

委員 中高生の居場所としての公民館の活用について、地域によっても活用度合いが違うと思うが、開放することによって助かる生徒はいると思うので、今後も学習室の開放はお願いしたい。

## 2 令和元年度小平市公民館定期講座実施状況について

事務局より資料1について説明した。

（質疑応答）

委員 中央公民館の防災・生活安全講座「もしものためのサバイバル体験」について、募集は10組20人で良いか。また、応募はどのくらいか。

事務局 募集は10組20人である。本日朝の段階で、15組30人の申し込みが有る。立川防災館に行く内容が含まれていること、また、子供向けにサバイバルというキャッチフレーズで募集をかけているので、人気が出たのではないかと思う。

- 委員 花小金井北公民館の地域支援講座「紙芝居、演じるっておもしろいよ！楽しく学んで演じてみよう」について、同じ内容で、時期を変えて1コースを2回行うようだが、応募人数が少ない。これに対し、シニア講座「スマホ（アンドロイド）を楽しみましょう！」は募集人数の3倍の応募がある。応募人数の多い講座を2回開催した方が良かったのではないか。
- 事務局 定期利用団体の活動も配慮して講座の日程を決めている。地域支援講座「紙芝居、演じるっておもしろいよ！楽しく学んで演じてみよう」は、会場の都合で3回ずつに分けることになった。その際、普段働いている方が参加できるように土曜日コースを設けた。シニア講座「スマホ（アンドロイド）を楽しみましょう！」については、講師の都合で1回の実施となった。事業企画委員会の中で応募が多い講座として企画案が挙がっているので、実施する方向で検討したい。
- 会長 花小金井北公民館の防災・生活安全講座「災害時にあなたならどうしますか」について、これまで防災講座は不人気だったが、今回は人気だった。自治会の掲示板にチラシが貼ってあったが、自治会にお願いしたのか。
- 事務局 当初、応募が少なかったもので、近隣の自治会長に、掲示板の貼付や自治会内の回覧を依頼したところ、何人かの申し込みがあった。
- 会長 掲示板で見たが、大変インパクトのあるチラシだった。
- 委員 津田公民館の地域支援講座「やさしい日本語会話を学びましょう」の応募は何人か。
- 事務局 15人である。
- 委員 津田公民館の講座は応募者数が多いが、チラシを配る場所などの工夫をしているのか。
- 事務局 場合によっては近隣の住宅にチラシをポスティングすることもあるが、「やさしい日本語会話を学びましょう」については、内容が分かりづらいと思ったので、実際に職場で外国人の方と接していると思われる市の職員や市内の幼稚園・保育園の職員向けにPRを行った。
- 委員 必要だと思われる場所に配布したということは、工夫していると思う。

委員 1月～3月の講座が少ない。受講生側からすると1年中時期を問わず受講したいと思うが、時期が偏るのには理由があるのか。

事務局 施設内の共用部分に冷暖房が効かない館があること、また、保育付きの講座や夜間講座などは気候のいい時期に実施している。

3 令和元年度 東京都公民館連絡協議会について  
事務局より資料2について、委員より資料3について説明した。

4 関東甲信越静公民館研究大会について  
資料4参照。

会長 研究大会か9月7日の東京都公民館連絡協議会の委員部会研修のどちらかの感想をお願いしたい。

委員 研究大会の基調講演「地域課題解決学習から地域創生へ」が印象に残った。公民館自体が体質改善していかなければならない。また、公民館を支えている住民と公民館職員が一体となって地域ネットワークを再構築できれば良いと感じた。

委員 研修会に参加した。他市の若者を公民館に呼び込む事例を聞いて、これからも公民館活動について考えて行かなければならないと、公民館を見直すきっかけになった。

委員 研究大会の事例報告「ひとが変わりまちが変わる『学びのカフェ物語』」（広島県大竹市玖波公民館）がとても良かった。地域で幸せに暮らせるための場所が公民館であり、そのために、公民館に来館した市民に声をかける、歓迎する。公民館が、あたたかい場所であること、楽しいことを学べる場所であることが大切であり、このようなことを再認識した。

委員 研修会について、若者に公民館に興味を持ってもらうための取り組みのケースを伺った。大田区の「現代社会の生きづらさにどう立ち向かうか」の中で、若者は忙しくて公民館には来られないと考えられているが、2017年の統計で15歳から39歳までの何もしていないニートが71万人いることがわかっている、という話を聞いた。このことを聞いて、学校に行かなくても、自分の居場所があることで、社会生活が送れるようになった知人のことを思い出した。公民館が目向けるべき相手は、ひきこもりの若者なのではないかと考えた。ひきこもりの若者が学校の保健室に登校するように、地域の保健室、若者が外に出る場所としての役割を公民館に持たせてもいいので

はないかと思った。

委員 研究大会について、「公民館は地域の諸課題に真正面から取り組むかけがえのない拠り所であり、拠点であることを願っている」との挨拶があった。このたびの、千葉県の台風による災害では、公民館が避難所となっており、改めて公民館の重要性を認識した。また、地域と学校の連携・協働について、当然のことと思うが推進すべきだと思った。最後に、シニア世代のボランティア活動などは学びの循環であり共感できる内容だった。

委員 研修会について、若者を公民館に呼び込むには、小学生から取り込んでおくといいいのではないかという意見があった。小平では、夏休みにたくさんのジュニア向けの講座があるのはいいと思う。

会長 研究大会では、第7分科会「公民館の存在意義」に参加した。公民館には、地域とともにコミュニティ作りの拠点としての役割があることを再確認した。コミュニティづくりの基盤であるあいさつ、声掛けが活発になることにより、公民館を訪れた方が満足するような公民館であって欲しいと思った。『公民館だより』（10月号）に、記録をまとめたものを載せているので、そちらも読んでみてください。

委員 研究大会の第8分科会「地域課題1（教育分野）」に参加した。市町村によって公民館の置かれている状況が違う。その中で、役割や機能について、同じ土俵で話し合うことは無理があるのではないかと感じた。研修会では、若者を公民館に呼び込むためには、まず若者をリスペクトした方がいいのではないかと思った。

#### 5 10月29日開催予定の自主研修会について

会長 今年の2月に行った自主研修会では、事業企画委員会、公民館利用者懇談会等連絡協議会と「よりよい公民館運営」と題して意見交換会を行った。居場所としての公民館、公民館の広報、役員のなり手への対応など、さまざまな意見交換ができたが、今回はテーマを絞って再度3団体で意見交換会を開催したいと思っている。

#### 6 公民館運営審議会委員数について

事務局から資料5について説明した。

(質疑応答)

委 員 何故人数を減らすのか。

事 務 局 公募委員を増やすことは、公募の応募数から考えられないので、分館からの選出数を減らすことで調整したい。

委 員 利用者数を考えるとバランスがあまり良くないように思う。

事 務 局 今後、検討したい。

委 員 何年かごとに地区を入れ替えて、ローテーションしたらいいのではないか。

委 員 学識経験者枠はなるべく定例会に参加が出来る方をお願いしたい。

## 7 提言について

事 務 局 8月20日の自主研修会について、委員10名の参加があった。2つのグループに分かれて話し合いを行った。

1つ目のグループのテーマは「居場所としての公民館」について話し合った。人には3つの居場所があり、1つ目は「家」、2つ目は「学校・職場」、3つ目は「趣味・社会活動」であり、3つ目の居場所が大事である。

意見として、公民館の一部をサロン化してホストを置く。ホストを職員が務めることが難しければ、ボランティアが行う。サロンを開きたいグループが社会福祉協議会を通して、上水南公民館でサロンを開いている事例もある。

2つ目のグループのテーマは「情報の共有・発信・PR」について話し合った。公民館の活動で、変わってはいけないことと変わって行かなければならないことがある。変わってはいけないことは、平和や民主主義教育であり、変わるべきことは時代の求める課題に応えること。

意見としては、情報の共有として他部署と共同で講座を行うことにも意義があるのではないか。行政をあげて取り組んで欲しい。先進地域の情報を積極的に活用する。市報にもっと公民館の情報を載せて欲しいという意見があったが、こちらは紙面に限りがあるので、市のホームページで市報に載せられないチラシなどの情報を載せているので見て欲しい。

その他、具体的な提案として、事業企画委員会のなり手不足解消のための案として、事業企画委員会のPRを模造紙などを使って公民館の入口に貼り出してはどうか。そこに委員の名前も入れれば委員のモチベーションもあがるのではないかという案があった。10月の自主研修会、2月の東京都公民館連絡協議会の研究大会でも議論を深められればと考えている。

## 8 その他

資料 6・7 参照。

自主研修会は、10月29日（火）午後2時から中央公民館で、次回の定例会は、12月10日（火）午後2時から仲町公民館にて開催する。